**在宅看護論実習評価表**実習期間：　　　　月　　　日　〜　　　月　　　日

実習施設名：　　　　　　　　　　　　　　　　学校名：　　　　　　　　　　学生番号：　　　　　　　　氏名：

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | 評　価 | | | | |
| **１．在宅療養者と家族の生活に即した療養上の課題をアセスメントできる** | | | | | |
| １）療養者と家族の健康状態、生活状況に関する情報収集ができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２）療養者の健康状態・障害が生活に及ぼす影響について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ３）療養者の療養環境（住環境、社会資源の活用状況）などについて説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ４）家族の健康状態と介護の状況について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ５）アセスメントを統合し療養者の病態像および生活像を関連図として記述できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ６）アセスメントに基づき、療養者と家族がもつ日常生活と療養上（介護上）の課題・看護ニーズを  説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ７）療養者と家族の思いや希望につながる長期目標と療養上の課題の解決に向けた達成可能な短期目  標を設定できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| **２．療養者とその家族がもつ療養上の課題に対する看護展開ができる** | | | | | |
| １）療養者と家族が療養生活を継続していくために必要な看護計画を立案することができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２）立案した看護計画、行動計画に沿った看護実践ができ、療養者の生活に即した援助の工夫について考えることができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ３）実践あるいは見学した看護について評価し、計画の修正ができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| **３．訪問看護ステーションの機能と役割について理解できる** | | | | | |
| １）実習訪問看護ステーションの特徴、役割、利用者の概要について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２）訪問看護が行う援助の特性について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ３）在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割と機能について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| **４．訪問看護ステーションと関係する多職種との連携について理解できる** | | | | | |
| １）受け持ち療養者を支える保健医療福祉の関係機関や関係職種、社会資源・福祉サービスなどについて説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２）在宅療養者と家族を支える保健医療福祉の関係機関や関係職種それぞれの役割と連携方法について説明できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| **５．在宅療養者と家族に対し学生として責任ある行動をとり主体的に学ぶことができる** | | | | | |
| １）療養者や家族、実習施設の職員に対して適切な言葉づかい、態度、責任ある行動がとれる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２）自己の学習課題を明確にし、積極的に実習に取り組むことができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ３）実習日誌や看護計画等、記録物の提出は期限を厳守できる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ４）自己の振り返りやカンファレンスにより、実践した内容を意味づけることができる | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |
| **６．課題レポート**（誤字脱字、適切な文章表現、文献活用、テーマに沿った内容、学びと自己課題） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 合計 | | | | | |
| 教員評価・コメント  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　教員名　　　　　　　　　印 | | | | | |

評価基準　５：指導を受けて主体的に達成できた　４：指導や助言を受けながら達成できた　３：繰り返し指導や助言を受けて達成できた

２：繰り返し指導や助言を受けてなんとか達成できた　１：繰り返し指導や助言を受けたが達成できなかった